

潜入!! 医療現場 途ちゅアフター

第31回 >>> 在宅医療介護連携推進「柏モデル」



トチュー調査員

お家が大好きなトチューです。
住み慣れたお家で医療ケアを受けることを
「在宅医療」っていうんだって。
今回は進化し続けている柏の在宅医療の
強みを聞いてきたよ!

市では、平成22年(2010年)、高齢化率が40パーセントを超えていた豊四季台地域をモデルに、医療や介護が必要になっても、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちを目指した取り組みを始めました。医療機関や介護施設などの協力のもと、住まいに着目した在宅医療と介護を連携させたこの取り組みは「柏モデル」と呼ばれ、全国初の試みとして注目を集めました。現在も国内外から多くの視察が訪れています。

開始から13年間、多職種の関係者と共に在宅医療と介護の連携に取り組み、市内の在宅療養支援診療所の数はおよそ2.9倍に、訪問看護ステーションの数はおよそ4倍に増加。市内のどの地域でも在宅医療を安心して受けられるようになりました。

最大の強みは「顔の見える関係づくり」による信頼のネットワークです。13年間続いている会議や研修会では、毎回多職種の関係者が直接話し、交流を深め、チームとして患者を支える関係を築いています。また、2,000人以上の関係者が登録するシステム「カシワニネット」で、患者情報をリアルタイムに共有することで、患者が自宅で困ったときにも、情報の交換がスムーズにでき、医師や看護師、



薬剤師などが自宅に駆け付けることができるそうです。

しかし、2040年には高齢者人口がピークを迎えるといわれていて、在宅医療・介護の需要が増えると、担い手が不足する可能性が高くなります。そこで市では、この状況を見据えて、令和6年度に柏市医師会、東京大学と新たな協定を結び、3者間で連携してさらに幅広い関係づくりを進めています。また、高齢者だけでなく、より高度で専門的な知識が求められる障害者や医療的ケアを必要とする子どもが、この先も充実した在宅医療を受けられるよう、新たなモデルの検討も進めています。

トチュー 調査員の **もっと知りたい!**

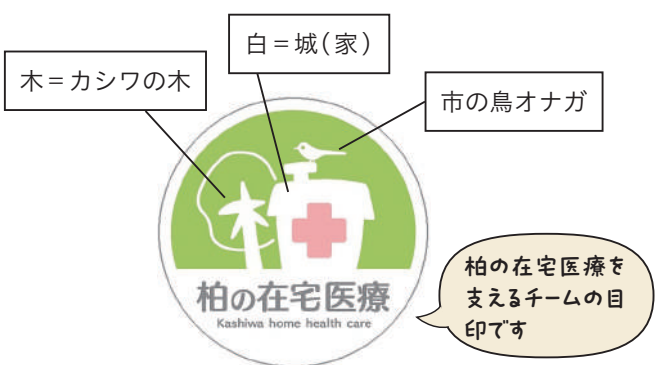
Q1 誰でも希望すれば在宅医療を受けられるの?

A 身体機能の低下や病状の進行等で通院が難しくなったかたが利用できる制度です。利用を考えているかたは、まずは、かかりつけ医に相談してみてください

Q2 もっと在宅医療について知る方法ある?

A 在宅医療情報紙「わがや」を年に2回(9・3月)発行しています。市のホームページでも公開しています

市ホームページ



▲在宅医療連携機関や施設に貼られている共通ステッカー。市民公募により選ばれたデザインで、「木」と「白」を合わせた「柏」の漢字を基に在宅医療をイメージしています

このステッカーと一緒に、柏の在宅医療がもっと広がっていくといいね!



住み慣れたお家で安心して支援を受けることができる連携体制の進化に今後も注目したいですね。ご協力いただいた地域医療推進課の皆さん、ありがとうございました。